

平成 29 年度第 1 回学校協議会

日時 平成 29 年 6 月 2 日 (金) 15:30~

場所 校長室

1. 開会

2. 校長挨拶

3. 紹介

事務局と学校協議会委員

4. H29 年度 佐野工科地域コンソーシアムについて (別紙)

今年度は中学校・小学校に向けた出前授業の取組を予定。第 1 回は泉佐野市立上之郷小学校 7 月 18 日。

5. 事務局報告

① 「学校経営計画及び学校」について

② 各分掌の目標と本年度の取組について (別紙)

ア) 教務部

イ) 生活指導部

ウ) 進路指導部

6. 全体協議

○ 「学校経営計画及び学校」の中期的目標は何年間を示しているか？

Ans. 3 年間。今年度からはじまって平成 31 年までの目標になります。

○ 就職 1 次合格率昨年度実績 87.8% に対して目標数値が 75% 以上というのはやや低めではないか？

Ans. 合格率は経済状況にも影響される。ここ数年は好況で高い実績をあげているが、ベースとしてはこのあたりを想定している。

○ 大阪府下全体の生徒数が減っているか？

Ans. 減ってきている。それに対応する形で高校の再編整備がおこなわれ、募集定員が減少している。

○ 夏の体験入学に代わるものとしてオープンスクールがあるのか？

Ans. 実習を体験できるものが体験入学でした。昨年度は秋の時期ということで例年より実施人数は若干少なめでした。オープンスクールは授業の見学でたくさんの参加がありました。今年度はどちらも予定はなく、見学会や説明会の回数を増やしてより多くの機会を設けます。

○ 工科高校 9 校の倍率はどれくらいか？

Ans. 約半数は定員割れをしている。大阪市立の工業高校を含め、工業系の学校は苦戦をしている。

○ 大学などでは 3 年連続定員を割れば補助金減額などあったりするが、高校ではどうか？

Ans. 定員割れが 3 年続くと再編整備の対象となります。本校はこれに当たらないが、間違った認識を持たれている可能性がある。次年度 1 倍以上の倍率を確保することが本校の今年のもっとも重要な課題である。

○ 子どもの将来のことを考えるとドイツのマイスター制度のように職人評価をするようなものがあればよい。高校でのものづくりに対する重要性に特化したものを PR する必要がある。

○ 学校に入ればわかることも多いが、佐野工科高校のような学習環境や生徒の存在は産業界にとっては貴重でありがたいことである。

○ 佐野工科は生活指導が厳しく、誤った認識を持たれている部分もあるが、入学して良さがわかる。

Ans. 本校卒業の多くの OB の方々を通じての PR 活動や保護者の皆様方の地域でのネットワークを通じた魅力発信もお願いしたいと思っている。

○ 中学生保護者に対して進学面でも指定校推薦の PR をもっと活用してもいいのではないか。

○ 中学生自身に対する PR にはどのようなものがあるのか？

Ans. 例えば生徒が広報大使になり、母校である中間校を訪問し、厳しくとも良いところだということを伝えるなどのイメージ戦略も考えていく必要がある。